■科目名		
全人的歯科医療実践学		
■英語名		
The practical study of sholistic dental medecine		
■授業形態	■単位数	■開講期
講義	2	2期

■担当教員	■担当教員所属
種村エイ子、堅山清隆、キッペス・ウァルデマール、松村精子、ヨゼフ・ムイベルガ、於保孝彦、椙山加綱、山崎要一、鳥居光男、野口和行（講義順）、塚田澄代	心身歯科学
■連絡先（TEL）	■連絡先（MAIL）
099-275-6290	tsus@dent.kagoshima-u.ac.jp

■オフィスアワー

【オフィスアワー】講義後
【メール・HP】上記のメールアドレスに、質問などを送ってください。後日に回答します。ただしメールでの欠席届けは無効です。
【授業後】授業直後の時間に質問などに対応します。
【その他】電話対応もいたします。

■キーワード

社会的貢献意識，視野・判断力・探求能力

■学習目標

1)医療、歯科医療および医学・歯学研究における倫理の重要性を理解し、その実践モデルを学習する。
2)生と死の意味を問い直し、命の尊さについての意識を深化する。
3)患者との信頼関係を築く方法を学ぶ。
4)自己とは何かの理解を深め、使命を自覚する。
5)他者認識の仕方および他者に対する態度のあり方を再認識する。
6)科学的なものの見方と人文科学的なものの見方の違いを理解する。

■授業概要

科目の目的:21世紀に必要とされるのは、画一性を脱し、医療を脱し、キュア(治療)とケア(援助〈サポート>・癒し)の融合を重視する医療である。そのために臨床および学外の終末医療の専門家によるケアの実践の伝授に加えて、薬害患者を招へいし、その実体験を追体験する。それにより医療を医療者・患者の両面から考察しなおし、実践に万全を期す準備をすることを目的とする。さらに使命を自覚し、人間の尊厳を常に念頭に置く医療の実践とは何かを多面的に考える。

■授業計画

第 1回	癌との闘病体験を語る(1)(インフォームド・コンセント	(種村)	10/ 2 (5時限)
第 2回	癌との闘病体験を語る(2)(緩和ケア)	(種村)	10/9 (5時限)
第 3回	人間とは・使命感・生きがい	（塚田）	10/16（2時限）
第 4回	C型肝炎県民の会代表による講義(1)	(堅山)	10/23（2時限）
第 5・6回	スピリチュアルケアについて学ぶ	(キッペス)	10/30（1・2時限）
第 7回	我が看護人生を振り返る(1)	（松村）	11/6（以下2時限）
第 8回	人間の尊厳（1）	(ムイベルガ)	11/13
第 9回	我が看護人生を振り返る(2)	(松村)	11/27
第10回	C型肝炎県民の会代表による講義(2)	(堅山)	12/4
第11回	未来の歯科医師像	（於保）	12/11
第12回	臨床におけるケアの実践（1）	（椙山・山崎）	12 /18
第13回	人間の尊厳（2）	(ムイベルガ)	1/8
第14回	臨床におけるケアの実践（2）	（鳥居・野口）	1/15
第15回	自己認識と他者（グループディスカッションと補足講義)	(塚田)	1/22
第16回	期末試験	(塚田)	１/29

■予習・復習へのアドバイス

■教科書

必要に応じてコピーを配布します。

■参考書

神谷美恵子『生きがいについて』みすず書房
アレキシス・カレル『人間この未知なるもの』三笠書房
ガブリエル・マルセル『存在の神秘　マルセル著作集5巻』みすず書房
その他随時紹介します。

■成績の評価基準

講義後のレポート（４０点）、授業への参加態度（１０点）、期末試験（５０点）

■その他

塚田担当以外の各講義ごとに、講義の終わりに感想文、学んだことの小レポートを提出していただき、小テストとして評価の対象にします。塚田の講義内容は期末試験の対象になります。（参考資料持ち込み不可）
原則として2時限ですが、2回5時限、1回1時限の変則な時間割になっているので、気をつけて下さい。

一講義二人の講師の場合は、前半１０ｈ４０～１１ｈ２５、後半１１ｈ２５～１２：１０.
１１月２０日は歯科人文社会学の講義。